

今夜7じより
五成市民館3階
(成警署ウラ、炊き出し公園前)

関東大震災60年

朝鮮人虐殺を忘れず
大杉栄ら主義者虐殺を忘れず
反差別・反天皇制の闘い

夜間学校

釜ヶ崎夜間学校
西成区萩え茶屋ス-5-23
解放会会館2階
釜日労争議団気付

平均像と個人

個々の生と

集団としての生

前回の夜間学校では、夏祭りに行なわれたアンケート調査から得られる釜ヶ崎労働者の平均像と個々の参加者の場合とを比べてみるという作業をしました。扱ったのは、年齢、出身地、職歴などですが、ウラの報告にもありますように、ア

平均像は「だいたいになり」て「参加者の実態を反映していることがわかりました。そこで、今回も前回に引き続きこの釜ヶ崎労働者の平均像との比較検討を行なつてみたいと思います。検討したいのは、以下の項目です。今一ヶ月の収入

にいくらかかつかうか、酒はのむかーのむとすればどのくらいか、ギャンブルはどうか、仕事のない日は一日をどうやってすごすか、などです。ずいぶん前のことですが、夜間学校に参加したある若い労働者はおよそ次のようなことをいいました。――
「酔って路上で寝ているオッサンなんかをみると、この人はいつたいてい何を考えているんだらうかと思つてしまふ。ムとリムとりの労働者はどんなことを考えているんだらうか、そんなことを考えてしまふ。――」

この釜ヶ崎には二万の労働者がいて、同じ地域で生活してあります。だから、他の仲間がどうしてこんな生活をしていっているか、どんな生活をしていっているか、よくわかっていっているように思いますが、どうもどうとばかりはいえないので、平均像と各自の場合とを比べることで、各人のおかけになっている位置と、釜ヶ崎労働者全体のおかけになっている状況もわかるのではないかと思っています。
自分釜ヶ崎全体の中の位置づけ、さらにはこの国の社会全体の中に位置づけける――そういう作業をやつてみたいと思つています。多くの人の参加を待つことにします。

自分の歴史を振り返って 一体、何が見えてきたのか

前回の夜間学校では、再々度、夏祭り期間中になされたアンケート調査の結果にもとづいて、皆で「釜の労働者の平均像」について考えた。

むしろ釜の労働者は、だれもがみんな自分だけの歴史と自分だけの生活をもっているだろう。しかし、それと同時に、むしろみんなに共通するものも何かあるのではないか。その共通する何が、むしろの生活のあり方を決定しているのではないか。さらには、今、むしろにとってもっとも大切で必要な、仲間の団結も、この共通する何かを見

つけ出すことから始まるのではないだろうか。

アンケート調査から、だんだんといろいろなことがわかり始めた。たとえば、「年れい45才、釜に来て13年、賃金7千円で、一ヶ月におよぼし日仕事にありつけて、収入は認定を別にして、約10万円弱ぐらい、食事は一日平均千六百円、八百円ぐらいのドヤに住んでいる単身の労働者」、このような釜の仲間の平均像がうかがいあがって来た。参加した仲間のひとり「自分の力が足りなくて釜に来た者が多い」と語っていたが、釜の多くの仲間

は、あの万博のころに一番多く釜に来ていたのであり、だとすれば、むしろの仲間の多くは、努力が足りなくて失敗して釜に来たのではなく、釜が「すなわち、万博で金もうけをした奴ら」がたくさんの日雇労働者を必要とした、という現実が、むしろをここにあつめたのだ、とは言えないだろうか。

釜に来たときの平均年れいは32才ぐらい。とすれば、仲間の多くは、釜に来る前に、何か他の仕事をしていたことになる。調査票の中には百人以上の仲間の職歴もいろいろある。さまざまの理由がある。夜間学校に参加した仲間にも、自分の仕事のうっかりかりり(職歴)について語ってもらった。そして、そこにもさまざまの仕事と転職の理由があった。機械工場、ゴム工

場、運送会社、鉄工場、製糸工場、自衛隊、など。さらに転職の理由としては、低賃金、倒産、仕事にまわらない、アソビにかまけて、文の向題、上役とケンカ、など。このような仕事をへて釜に来た仲間は、はたして「自分の頭が足りなくて勉強しなかつたから、こういう生活をするようになった」とい

ひとり仲間「今だったら、なぜその仕事に不満だったのか語ることができると、当時は言葉がまづしくて、行動でしかあらわせないくて、転々と職をかわったのだ」と話してくれた。むしろの仲間の大部分が経験して来た「転職」の本当の理由は何かみだらうか。自分の歴史を振り返って、それを考え、言葉にあらわすことが必要なのではないか。